



## 自己暗号化ディスクに暗号化を有効にする

CE1300には、FIPS140-2 準拠の自己暗号化ディスクである **UCS-HD12T10NK9** が付属しています。ただし、デフォルトで暗号化が有効になっている状態では出荷されません。

このセクションでは、個々のディスクのドライブセキュリティを有効にし、RAID 1 アレイを保護する方法について説明します。ユーザーは、データを失うことなくこれらを適用できます。ただし、サービス中のアクティブなマシンでこれを行う場合は、『[Cisco Expressway 管理者ガイド](#)』の手順に従ってマシン設定をバックアップします。



**Note** Expressway にオプションキーがインストールされている場合は、セキュリティを有効にする際に問題が発生した場合に備えて、これらのキーが安全にコピーされていることを確認します。

ディスク内のハードウェアを暗号化し、Expressway バックアップのバックアップ後にアレイを保護するには（必要な場合）、次の手順を実行します。

1. CIMC にログインし、左上のメニューアイコンから **[Storage/Cisco 12G SAS RAID Controller with 4GB FBWC (16 devices) (MRAID)]** を選択します。
2. **[コントローラ情報 (Controller Info)]** タブで、**[ドライブセキュリティを有効にする (Enable Drive Security)]** をクリックします。
3. **[ローカルキー管理 (Local Key Management)]** を選択します。**[セキュリティキー識別子 (Security Key Identifier)]** または **[セキュリティキー (Security Key)]** を入力するか、**[提案 (Suggest)]** ボタンを押して値を生成し、いずれかを選択します。
4. 値が再度必要になった場合は、安全な場所に値を記録します。
5. ディスクの **[保存 (Save)]** をクリックして、SED 機能を有効にします。
6. **[仮想ドライブ情報 (Virtual Drive Info)]** タブをクリックします。
7. **[RAID 1 ディスク (RAID 1 disk)]** チェックボックスをオンにします。
8. **[仮想ドライブの保護 (Secure Virtual Drive)]** を選択し、プロンプトで仮想ドライブを保護するかどうかを確認します。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。